

症例カンファレンス

脂質異常

東方医療振興財団

1

えみクリニック東大前
令和8年9月
菅沼 榮

参考症例の弁証論治

性別：男性

年齢：70代 初診：X年5月

主訴：脂質異常の改善

現病歴：十年前から脂質異常、軽度脂肪肝と指摘された。

（総コレステロール226、中性脂肪：348、GOT31、GPT56、 γ GTP67、
血圧やや高め135～140／85～90mmHg、前立腺PSA:8.67。（父親が前立
腺がん）。本人は病気（風邪などの感染症からがん）予防のため、漢方を
希望した。肩こり、肩痛、時々頭痛、身体が重い、朝口の中がネバナバす
る、粘っこい痰が出る、四肢しびれる、疲労倦怠感が強い、睡眠6時間、
食欲正常、在職の時は美食、お酒が多かったが、現在健康への意識から家
庭料理を中心にしている、毎日排便あり、やや軟便。煙草吸わない。

BMI：24.6

既往歴：治療が必要な疾患はないが脂肪肝、肝嚢胞、腎嚢胞、結腸憩室。

望診：顔色やや黒ずんでいる、舌暗、舌下静脈軽度怒張、苔薄黄膩。

聞診：特記事項なし

切診（脈診）：脈弦滑

弁証論治の分析

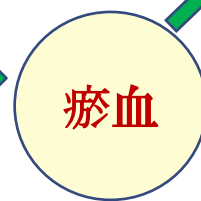
粘痰、口中粘膩、
身重、肩凝、脈滑
美食、美酒
軟便、苔黄膩

痰濁内滞
痰湿化熱
湿熱滯絡



津停生痰

脂質異常
軽度の脂肪肝
血圧高め
痰瘀互結



血滞生瘀

肩痛、頭痛、四肢痺れ
面黒、舌暗、舌下静脈
脈弦

瘀阻絡脈
不通則痛

推動低下



防御機能の低下
疲労倦怠、風邪をひきやすい

中医病名：虚劳 痰証 瘀証（并病）

并証：瘀痰阻絡 久積傷氣（并証）

三并合参（病・証・症を合わせて参照する）

論治：化痰清肝 活血化瘀 健脾益氣

処方：茵陳蒿 3 薏苡仁 3 竹茹 3 土茯苓 3

猪苓 3 金銀花 4 連翹 3 板藍根 3

丹参 3 牡丹皮 3 益母草 3 牛膝 3

釣藤 3 黄耆 4 蒼朮 3 山查子 3

参考処方：竹茹温胆湯＋冠心Ⅱ号＋清暑益氣湯

赤字⇒温性 青字⇒涼性 緑字⇒平性

処方分析

煎じ薬分析：

茵陳蒿（疏肝） 薏苡仁（健脾） 竹茹（清肺） 土茯苓（除湿解毒）

猪苓（淡滲利竅）⇒利水化痰清肝

金銀花 連翹 板藍根⇒清熱解毒

丹参（心） 牡丹皮（肝） 益母草（腎） 牛膝（下行）⇒活血化瘀

釣藤⇒清熱 平肝 熄風

黄耆（行滯） 蒼朮（燥湿）⇒健脾益氣

山楂子⇒消食 化積 散瘀

参考工キ又劑分析：

竹茹温胆湯⇒化痰清熱（痰）

冠心Ⅱ号⇒活血化瘀（瘀）

清暑益氣湯⇒健脾 益氣 清暑

赤字⇒温性 青字⇒涼性 緑字⇒平性

経過：

半年後の検査は中性脂肪107 総コレステロール216

GOT：31、GPT35、 γ GTP48、PSA:6.56。血圧が正常になった、頭痛は出なくなった、身体の重み、倦怠感を感じなくなった、口内の粘りと痰が少なくなった、風邪を引かなくなった、四肢の痺れが軽減されたが、手の痺れが残っている、軟便が改善された、舌暗は同じで、苔薄になった。煎じ薬を現在まで服用し続けている。

毎年検査を受けている、数字も上下するが、大きな変動がない、仕事に集中する毎日を過ごしている。

※本症例は高橋医師と一緒に見た症例であり、感謝申し上げます、個人情報保護と学習目的のため症例の一部を変更している。

考察

分類：証（病因：痰・瘀・虚）に基づいて症状を分類する

治療順位：標治：一番つらい（一番改善したい）症状を
治療する

本治：症状を引き起こす根本的原因を治療する

症例：標治：痰・瘀などの病理的な産物を除去する

本治：正気を補益する

「急則治標、緩則治本」 「標本同治」

「治病求本」 「治未病」

※一律の順番ではない